

保育園での異文化体験エピソード



その34 生まれた国の誇り



イラスト・うつろあきこ

お 父さんが中国人、お母さんが日本人、そして、日本で生まれ日本の保育園に通う2歳の女の子が1人。こちらでお店を構え、生活も安定していたようなので、このまま日本にずっと住むのかと思っていたら、ある日突然中国に帰るという話が持ちあがりました。理由は、2歳になる娘がまったく母国語を話せないことに危機感を持ったからということが主なものでした。

中国語の話せない娘と妻を抱え、帰国してからの生活を考えると、不安なこともたくさんあったのですが、子どもの言葉、教育のことで家族が移動するというほど、母国語の獲得を大切に考えていたお父さんに、中国人としての誇りを感じました。

そういえば、海外の幼児施設を見学したとき、世界地図が貼ってあったり、外国籍の子にその国の言葉で挨拶したり、文字のカードや国旗等が用意され、その子の生まれた国の文化を大切にしている様子が伺えました。私たちは、保護者の母国を大切にする保育をどこまでやっているのでしょうか。それはその子の国に対する誇りと、一緒にいる子どもたちの視野を広げ、平和の目を育てるチャンスになります。

(島本一男／東京都八王子市・長房西保育園園長)

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会
 TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879
 E-mail : ans@zenshihoren.or.jp